

# 風土記の丘の花だより<sup>334</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2026年8月15日)

先日は、余り記憶にない「逆走台風」のおかげで少し涼しい日がありましたが、また夏の暑さにもどりました。前回の333号を出した翌日にウバユリが開花しましたが、残念ながらすでに花は終わってしまいました。紹介できずに残念です。タイミングが難しいですね。



残念続きで、ちょっと残念なオミナエシを紹介します。今年は万葉植物園で順調に成長し、つぼみが見えてきたころ、茎がポッキリと折れてしまいました。虫がかじったのでしょうか。すると、しばらくしてからわき芽が成長しつぼみになり、それが開花しましたが、ご覧のとおり、実に小さな花になってしまいました。残念ではありますが、オミナエシはオミナエシ、黄色い花を愛でてください。「手に取れば 袖さへにほふ 女郎花 この白露に 散らまく惜しも」 万葉集の歌です。



シロバナサクラタデがずっと前から咲いています。ピンク色っぽい花が多いタデにしては、珍しく真っ白な花です。万葉植物園では植栽されたものが見られますが、水辺が好きな植物で、大池には自生が見られます。西の池のほとりにちょっとした群落を作っています。でも、今はクズが生い茂り、とても見に行ける状況ではありません。写真中央に黒っぽく写っているのはマメコガネという小さなコガネムシです。かつてアメリカに渡って、大豆の大害虫になったことで有名になった虫です。



ヤブランの花もあちらこちらできれいに咲いています。葉は細長くたくさん出ます。そのまん中から花茎を伸ばしてたくさんの花を咲かせます。一株ずつ生えているのがヤブランで、広範囲に広がって生えているのはリュウキュウヤブランという別の種類です。観察会などではきちんと区別しますが、普段はそんなことは気にせず、みんなヤブランと呼んでもいいと思いますよ。名前にランと付きますが、ランではなくキジカクシ科という仲間に入ります。かつてはユリ科だったのですが、細かく分かれました。



他の木などに巻き付いて伸びるつる草のヤマノイモの花がひっそりと咲いています。派手さは全くなく、目立つ要素はほとんどありませんね。風土記の丘で、この仲間の植物にはヒメドコロやカエデドコロなどがありますが、ヤマノイモは一番シンプルな葉の形をしています。細長いハート型でぎざぎざや凹凸がほとんどありません。(次回335号は8月23日日曜日の発行となります) 松下